令和1年5月12日付・山陰中央新報

県内就職率19.6％ 初めて2割切る

島根県立大、18年度

島根県立大（本部・浜田市野原町）が10日、2018年度卒業生の就職率を発表した。課題となっている浜田キャンパス・総合政策学部の県内就職率が19・6％と、07年度の大学法人化以来、初めて2割を切る低水準となった。県外も含めた就職率は松江、出雲、浜田の3キャンパスとも97～100％の高率だった。

同大キャリアセンターによると、総合政策学部は前年度比12・2ポイント減。会見で清原正義理事長兼学長は大幅に落ちた要因を「入試制度が変わり、県内出身者が少なかったため」と説明した。松江キャンパスの短期大学部保育学科の県内就職率も同12・7ポイント減の62・3％だった。

県外も含めた就職率は、総合政策学部が同1・3ポイント増の97・4％。松江キャンパスの短期大学部は総合文化学科が同1・2ポイント増の97・8％、健康栄養、保育の両学科は前年度と同じ100％。出雲キャンパスの看護栄養学部看護学科も前年度と同じ100％だった。

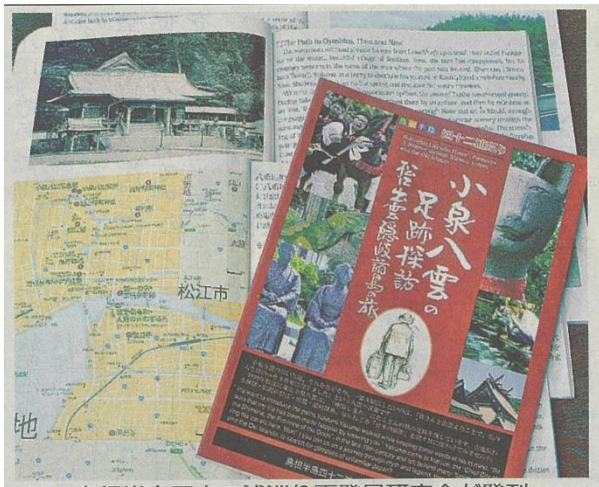
清原理事長は「入口減少対策に取り組む丸山達也知事に全面的に協力したい。入試改革で県内出身者の割合を高める」と述べ、21年4月入学者を対象とした入試で推薦入試の県内枠を広げるなど入試制度改革で対応するとした。

（鎌田剛）

令和１年５月 12 日付・山陰中央新報

松江出雲隠岐諸島の旅

「八雲の目線」で地域の魅力発信



島根半島四十二浦巡り再発見研究会が発刊した「小泉八雲の足跡探訪　松江出雲隠岐諸島の旅」

島根半島四十二浦巡り再発見研究会（飯塚大幸会長）が、ガイドブック「小泉八雲の足跡探訪　松江出雲隠岐諸島の旅」を発刊した。明治期の日本を世界に紹介した文豪・小泉八雲（ラフカディオ・ハーン）の名著「知られぬ日本の面影」に登場する出雲や隠岐の名所・旧跡を日本語の紀行文と英訳文で解説し、「八雲の目線」を通して誇るべき地域の魅力を外国人観光客らに訴える。（森山郷雄）

四十二浦巡り再発見研がガイドブック

紀行文と英訳文で解説

外国人の関心掘り起こす

松江市の八重垣神社や城山稲荷神社、加賀の潜戸、出雲市の出雲大社などの神秘的な雰囲気を記事と写真で紹介。約130年の時を超え、「知られぬ―」に描かれた八雲の心情を追体験できるよう、ルポ風にまとめた。八雲が愛した松江大橋の風情や当時から残る老舗店も取り上げ、外国人が松江の町歩きを楽しめるよう工夫を凝らした。

八雲が松江から熊本に移住した後に旅行で訪れた隠岐は、玉若酢命神社の祭礼や菱浦湾の風景のほか、隠岐ユネスコ世界ジオパークを代表する知夫里島の赤壁などを紹介している。

八雲が旅した時代の景観や暮らしぶりが分かるよう、明治後期の古写真を数多く掲載。英訳文も平易なレベルでまとめ、日本語文と照らして英語を学ぶこともできる。

内容は、研究会の研究座長で3月に72歳で急逝した関和彦氏、八雲のひ孫で小泉八雲記念館の小泉凡館長(57)が監修。島根県立大短期大学部のダスティン・キッド准教授(41)が英訳文などを担当した。

研究会の木幡育夫事務局長(69)は「八雲の世界観を通して外国人の関心を掘り起こすとともに、地域の魅力を再認識してもらう内容にした」と話す。

B5判カラー、119ページで、1404円。山陰両県の主要書店などで販売している。松江、出雲両市と隠岐4町村の学校や図書館などにも計千部を寄贈する。